

ゆきあき
金城幸昭さん

1929(昭和4)年7月生まれ

当時の本籍地 沖縄県

陸軍

所属 第2護郷隊(第四遊撃隊)

第3中隊第2小隊

戦地 沖縄県北部(恩納岳)



●1929(昭和4)年7月10日、沖縄県東村生まれ

●1945(昭和20)年3月1日、第二護郷隊第三中隊に入隊

- ・ 召集令状が届く。あたりまえだという気持ち。護郷隊は正式な軍隊なので階級がある。自分は二等兵。各々服を配給して、靴もあてられた。小さいのでなかなか合うものがなかった。
- ・ 25日間の教育で、それまでに現役の3カ月の教育をするんだということで、夜昼全然休む暇がなかった。

●1945(昭和20)年3月25日、安富祖(あふそ)の本隊へ移動

- ・ お使いで部落に砂糖を買いに行ったら、住民は「ありがとう、ご苦労」とお金はもらわなかった。

●1945(昭和20)年4月1日、米軍沖縄本島上陸

- ・ 恩納岳の上から1中隊、2中隊、3中隊。3中隊は下の先の方。私は3中隊で、三角山という地点にいた。三角山がアメリカに占領されて、奪い返すために部隊から切り込みが行った。発見され7、8名戦死者が出た。
- ・ あとからあとからアメリカが来て、下の山にも300か500名位テントを張っていた。彼らは夜に音楽をかけたり悠々としていた。1時間おきくらいに迫撃砲を24時間撃って来る。夜は艦砲射撃も。前線で仲間2人と交代した後、そこに迫撃砲の直撃を受けて、2人の背中と顔面に落ちた。塹壕が真赤になっていた。
- ・ 毎日恩納岳で戦闘。戦友も随分亡くなって、夕方になったら「今日はお互い終わった、明日になったらいるかわからんよ」と話し合った。
- ・ 食事は1日2回お茶碗に一杯朝晩。毎日届かない。途中で撃たれてやられたりで実際に食べられるのは一杯くらい。正式なトイレがないから、ちょっと離れてあちこちでする。まったく食べないからそんなにいかなかった。
- ・ 中頭、島尻から兵隊さんが下がってきて、一緒にいろんな行動をやった。こっちは軽機関銃と小銃と擲弾筒しかない。彼等は重機をもっているもんだから、重機を持って行って13号線に隠れて、アメリカのトラックとかが通ると撃って食料品を取りに行っていた。すごかった。

●1945年(昭和20)年5月28日、友軍機を見た

- ・ 体も小さいし着物をつけて、いつも斥候にいつてきた。要するに彼等(アメリカ兵)はこっちが子供だということで、お菓子をくれたり煙草をくれた。洋服はつけていけない。相手の様子を探りにいつているわけだから。
- ・ 飛行機にサーチライトが届いて日の丸が見えた。確か海軍機だった。悠々と一機。友軍機を見たことがなかった。ので、なつかしいなあと思って山から見ていた。このころは伊江島なんか五周くらい軍艦が巻いていた。
- ・ この少し前に、石川以北の松並木を倒せばアメリカ軍が通らないということで、爆薬で倒して橋を落として、恩納村から以北全部やった。でも彼等は問題ないわけ。ブル(ブルドーザ)で片づけるから。壊した橋も後で全部鉄橋に変えてあった。困ったのは沖縄の避難民だった。馬車で通れない。かえって県民を殺したわけ苦しめたわけ。

●1945年(昭和20)6月、いよいよ激戦も最期、恩納岳も総攻撃を受ける

- ・ 6月1日、前線の三角山の後方にあった指揮班がやられて、6月2日か3日に2小隊全部後方にさがった。下がる時に負傷して歩けない人とかはもう拳銃で自決したり、手榴弾を置いていった。
- ・ 缶詰を拾ってきなさいと命令されて金武(きん)の池に行ったら、友達と2人で捕まった。金武(きん)の学校に連れられて行ったが、朝の作業に紛れて逃げた。部隊に帰らず逃亡兵だと思われたら大変。なんとか戻ったら、もう部隊は移動していない。途中でアメリカに捕まえられたりして、東村に戻った。部隊より10日くらい早く着いた。
- ・ みんな元気で、家族が全部いた。師範学校生とか現役から帰って来た人とかが残っていて、「総攻撃をやるから一緒にいこう」という。「日本は敗けているよ」と言って総攻撃の準備をやめさせた。
- ・ それから十日くらいしたら部隊が帰ってきた。時期が来るまで家庭に戻って待機するように命令が下った。その後、部隊は有銘(あるめ)の山で解散。解散になったときに一等兵になった。部隊長さん達は7月か8月ごろ、説得されて山を抜け出したという話。自分は8月ごろ部落から出た。
- ・ 負けて当たり前だと思っていた。敗けてくやしいなあとかいうのはあんまなかった。(取材日:2012年2月5日)